

教育点検システムの点検結果報告書

(平成 21 年度)

徳山工業高等専門学校

自己評価委員会

平成 22 年度
自己評価委員会委員

委員長	機械電気工学科	森野	数博
委員	教務主事補	柏倉	知秀
	学生主事補	小林	明伸
	寮務主事補	熊野	稔
	一般科目	天内	和人
	機械電気工学科	張間	貴史
	情報電子工学科	奥本	幸
	土木建築工学科	佐賀	孝徳
	総務課長	久保	公四郎

目 次

点検手順と日程・総括	(i)
校長	1
教務主事室	3
学生主事室	5
寮務主事室	7
専攻科	9
一般科目	11
機械電気工学科	13
情報電子工学科	15
土木建築工学科	17
総合企画室	19
学生相談室	21
学習・教育レビュー室	23
キャリア教育支援室	25
eラーニング推進支援室	27
図書館	29
情報処理センター	31
テクノ・リフレッシュ教育センター	33
教育研究支援センター	35
自己評価委員会	37

教育点検システムの点検結果報告書(平成 21 年度)

○ 点検手順と日程

点 検 内 容	日 程
1. 平成 21 年度運営委員会の構成メンバーに、各担当部署の活動状況報告書の提出を依頼	3/18 依頼 4/9 〆切
2. 提出された報告書に対し、自己評価委員がそれぞれコメントを記入	4/28(水)第1回委員会 5/7(金) 〆切
3. 自己評価委員から提出されたコメントを部署ごとに一覧にまとめ、自己評価委員に送付	送付 5/10(月)
4. 他の委員のコメントも参考に、自己評価委員は再度コメントを提出	5/13(木) 〆切
5. 自己評価委員から再提出されたすべてのコメントを部署ごとに列記し、運営委員会メンバーに返却。自己評価委員会のコメントに対する意見(対応策や反論など)提出を依頼。その際、参考のため、当該部署のものだけでなく、すべての部署の報告書(自己評価委員のコメント付)も送付	送付・依頼 5/14(金) 5/21(金) 〆切
6. 各部署から提出された意見(対応策や反論)や修正された報告書をもとに、自己評価委員会において、本校全体として教育点検システムが機能しているかどうかについて検討	5/26(水)第2回委員会
7. 点検結果報告書をまとめ、公表	6/9(水)運営委員会 にて公表

○ 総 括

次ページ以降に、運営委員会を構成する各部署の平成21年度における活動状況報告書をまとめて示した。ここには、各部署の責任者である運営委員会メンバーが PLAN(年度当初の活動方針・活動計画)、DO(実際に行った活動)、CHECK(活動のチェック)、ACTION(チェックをした結果の対応)ならびに PDCA の点検結果(PDCA が機能しているかどうか)を自身で判断した結果、及び当該報告書に関する自己評価委員会のコメントに対し、対応策や反論等の意見をまとめて示している。

各部署より報告された PDCA の記述内容は概ね整ってきており、平成19年度に本教育点検システムによる点検を開始して 3 年目にして、本校における年間の活動状況が概観できるようになり、教育点検システムが機能し始めたといえよう。

各部署の点検結果では、PDCAが機能していると判断したのは19部署中12部署であり、平成 19 年度の 7 部署より確実に増えているものの 20 年度の14部署からやや少なくなっている。これは、昨年度で基本的スタイルがほぼ整ったことを受け、いくつかの部署において教育のさらなる質の向上に向け、本格的に歩みを模索し始めたことが原因として考えられる。

本校では、学習・教育目標を始めとして、教育点検システムを含む教育体制がほぼ確立した状況にある。さらに平成 21 年度末には本校の第 2 期中期計画が定められ、それに基づき、次のステップに踏み出す体制が整った。この中期計画をベースに、前年度の課題を次年度のPLANに加え、それを実現すべく、Do、Check、Action を実行することにより、本校の教育・研究のさらなる質の向上が実現することを期待したい。

平成22年5月

自己評価委員会

各部署の活動状況報告書（平成21年度）

部署役職名:氏名 校長 平野 千博

各部署の平成21年度の活動について、PLAN、DO、CHECK、ACTIONの状況を、下記の表に記入してください。（記入欄の大きさは変更可）

PLAN（年度当初の活動方針・活動計画） 重点的に取り組もうとした事項を記入して下さい。

- ・平成21年3月末に決定された高専機構の新中期計画を受けてすみやかに本校の中期計画を策定する。その際には、特に、中期計画実施状況の評価と評価結果の学校運営への反映が的確になされるよう配慮する。
- ・本校の設計情報工学プログラムに対する日本技術者教育認定機構による認定更新の際に指摘された本校教育プログラムの弱点を改善する。
- ・既に予算計上済みの専門科目棟西側部分改修工事を的確に実施する。
- ・残された専門科目棟東側部分について、安全対策強化等のための改修工事実現を目指して努力する。
- ・本校における教育の一層の高度化を目指して近隣高専、地域企業等との連携を促進する。

DO（実際に行った活動） 通し番号を振り、時系列で箇条書きにしてください。

- 1) 中期計画策定作業は1月まで遅れたが、2月25日の教員会議で説明の上、3月9日の運営委員会で審議了承され、決定された。
- 2) ①WとされたFD委員会については委員会規則を改正し、新しい体制で活動を開始した。②Cとされた教員の自己評価等の教員へのフィードバックについては平成22年度から開始した。③CとされたPDCAサイクルの改善については平成22年度において2回目を実施し、実績を積み上げている。④Cとされた学習・教育目標とカリキュラムの関係を説明する自己点検書表6の改善については教務主事に依頼して検討を進めている。
- 3) 専門科目棟西側部分改修工事は平成22年度中に実施し、完了した。
- 4) 専門科目棟東側部分の改修工事については、本部に強く要望してきたが、予算の制約により平成23年度の予算には計上されなかった。
- 5) ①近隣高専との連携については、県内3高専と共同で連携会議を2回開催したほか、専攻科合同中間成果発表会の開催等を行った。②地域企業との連携については、地域企業経営者等が参加する集会等に積極的に参加し、本校のPRに努めた。

CHECK（活動のチェック） 実際に行った活動により得られた成果、及び今後に残された課題（理由も含む）について記入してください（DOの通し番号と対応させること）。

【成果】

- 1) 第2期中期計画を策定した。
- 2) ①FD委員会については委員会規則を改正した。②教員の自己評価等の教員へのフィードバックを開始した。③PDCAサイクルについては2回目を実施した。④学習・教育目標とカリキュラムの関係を説明する自己点検書表6の改善についてはまだ具体的な成果が上がっていない。
- 3) 専門科目棟西側部分改修工事は完了した。
- 4) 専門科目棟東側部分の改修工事については、予算の制約により平成23年度の予算には計上されなかった。
- 5) ①近隣高専との連携については、県内3高専と共同で連携会議を2回開催したほか、専攻科合同中間成果発表会の開催等を行った。②地域企業との連携については、(株)トクヤマ常務白神氏による専攻科産業論講義の実現、教員による出光興産(株)徳山製油所・徳山工場の見学および中島所長等との意見交換の実施、テクノ・アカデミアへの宇部工業(株)の参加を実現した。

【課題】

- 1) 第2期中期計画を実際の業務に反映させていく必要がある。
- 2) ①FD委員会の運営。②教員の自己評価等の教員へのフィードバックの継続。③自己評価委員会によるPDCAサイクルのチェックの継続。④学習・教育目標とカリキュラムの関係を説明する自己点検書表6の改善についての検討の継続。
- 3) 残された課題なし。
- 4) 専門科目棟東側部分の改修工事について、引き続き本部に対し、早期の実施を求めていく必要がある。
- 5) ①県内3高専との連携事業の継続。②まだ交流の機会に乏しい地域企業との交流の拡大およびテクノ・アカデミア会員企業の拡大。

ACTION (チェックをした結果の対応) 残された課題に対し、何らかの対応をした項目について内容を記入してください (D○の通し番号と対応させること)。

- 1) 第2期中期計画を実際の業務に反映させていくため、プランを介したPDCAサイクルとの結合の在り方について検討を行った。
- 2) ①FD委員会の運営の仕方について検討した。②教員の自己評価等の教員へのフィードバックを継続する。③自己評価委員会によるPDCAサイクルのチェックを継続する。④学習・教育目標とカリキュラムの関係を説明する自己点検書表6の改善についての検討を継続する。
- 3) 残された課題なし。
- 4) 専門科目棟東側部分の改修工事について、本部に対し、早期の実施を求めた。
- 5) ①県内3高専との連携会議にて連携事業の継続を確認した。②まだ交流の機会に乏しい地域企業との交流の拡大およびテクノ・アカデミア会員企業の拡大のための方法について検討した。

PDCAの点検結果 PDCAが機能しているかどうか及びその理由について記入してください。

(○) 機能している () ある程度機能している () 機能していない

【理由】

実際に行ったことを当初のPlanに照らして十分であったか否かを検討し、その上でさらに努力すべきことを課題として認識し、解決の努力をしているため、私に求められているPDCAサイクルは機能していると判断した。

当該報告書に関する自己評価委員会のコメント

やるべきことと残されている課題の認識はできており、PDCAサイクルは機能している。平成22年度には、新たに策定した第2期中期計画に基づき、さらなる飛躍を望みたい。

機能している。教員の教育力と研究業績をさらに伸ばすために、校務の効率化を考え、最小の労力・時間で最大の効果を上げる校務のあり方を考えるべきと思われる。

機能している

FD委員会が開催されていないことを除き、適切である。

第2期中期計画は策定されたものの、学校全体の方向性がやや曖昧であるため、教育の高度化を目指した取組みが出遅れた感がある。しかしPLANに基づく活動は適切に継続され、PDCAサイクルは機能している。

自己点検書表6の改善は教務主事室の担当？教務の活動報告書には記載がない。

概ね機能していると思われる。

自己評価委員会のコメントに対する意見(対応策・反論等)

○ 校務の効率化を図るべきとのコメントはもっともである。平成21年度においては、対策を検討したのみで、具体的な対策を講ずるには至らなかったことは事実である。しかし、平成21年度中の検討の結果を踏まえ、平成22年度当初において、将来計画委員会を廃止するとともに、増大する新規業務ニーズに対しては総合企画室で吸収し、効率的に処理するといった対策を講じた。さらに効率的に校務を処理していくよう工夫していくことは重要な課題と認識している。その方策について具体的な提案をお持ちの方がいれば、提案を聴きたいので、連絡してほしい。

○ FD委員会については、平成21年度において新しい体制を構築した。しかし、新体制下での会合開催は2回にとどまったため、具体的な活動はまだ十分でなかったと思う。平成22年度においては、同委員会副委員長である教務主事の努力により、5月13日に会合を開催し、具体的な動きを開始した。

○ 平成21年度において教育の高度化を目指した取組みが出遅れたという指摘については、高度化改革検討WGの設置が本年2月にずれ込んだこと、積極的なPR努力にも関わらず平成22年度入試志願者が前年度に比べて減少したことから、反省しなければならないと考えている。平成22年度においては、上記WGの検討を加速し、本校の改革に関する具体的な提案を得て、それに基づく全校的な議論を進めていくこととしている。

○ JABEE受審に際して提出した自己点検書表6の改善は教務主事の担当である。教務主事は多忙であるため、まだこのことに取り組むことはできていないが、これまでそのことによって支障が出たわけではない。表6の改善については、教務主事と相談して計画的に進めていくこととする。

○ その他、いくつかの温かいコメントをいただき、感謝している。

各部署の活動状況報告書（平成21年度）

部署役職名:氏名 教務主事 池田 信彦

各部署の平成21年度の活動について、PLAN、DO、CHECK、ACTIONの状況を、下記の表に記入してください。（記入欄の大きさは変更可）

PLAN（年度当初の活動方針・活動計画） 重点的に取り組もうとした事項を記入して下さい。

- 質の高い入学者の確保
- 真の実力の育成（学習・到達度状況（到達度試験、英語一斉試験）の分析と対応、専門的能力に関する具体的評価・検証に関する検討、企業技術者活用プログラムの効果的な実施と教育内容の継続的検討）
- 教育システム・体制・環境の改善に関する検討（カリキュラム、再試験制度、時間割、年間行事予定、補習体制）
- 教務システムの検討（出欠管理システム、セキュリティ管理）

DO（実際に行った活動） 通し番号を振り、時系列で箇条書きにしてください。

- 1) 新入生出身中学校訪問（5月8回(19校)、7～8月情報提供26校）、学校紹介（中学校主催15校6～7月）、学科主任中学校訪問（県外含む10校）、進学説明会（県内13回60校参加）、校内見学会（2回）を実施した。
- 2) 徳山が提案を行い、山口県内3高専合同説明会を長門市にて開催した(9月)。この他、防府じばさんフェア(11月、2日間)に参加し、市民等へのPR活動を行った。
- 3) 英語一斉試験(ACE、TOEIC IP)と学習到達度試験(数学、物理)の分析を行い、結果の状況を全教員へ報告した。
- 4) 企業技術者等活用プログラムをほぼ計画どおり実施した。
- 5) 3主事出席のもと新旧担任連絡会を開催し、教育システム・体制等の改善に関する検討を行った。
- 6) 教務に関する活動や成績_欠席状況分析等をまとめた「教務だより」を2回発行し、全教員への情報の共有を図った。
- 7) 教育においてクラス担任の役割が非常に重要との認識から、「学級担任の手引き」(新バージョン)を作成し、配布した。また、教務に関する簡易な手引書（「教務の手引き」）を作成し、新任教員や非常勤講師へ配布した。
- 8) 教務システムによる成績処理、出欠処理、入試処理等の動作確認とともに、いくつかの修正を加え改善した。

CHECK（活動のチェック） 実際に行った活動により得られた成果、及び今後に残された課題（理由も含む）について記入してください（DOの通し番号と対応させること）。

【成果】

- 1) 校内見学会では2回共に昨年度より大きく上回る参加者があった。
- 2) 3高専合同説明会を提案、企画したことによりPRの重要性・必要性への意識が向上した。
- 3) 英語一斉試験や学習到達度試験の分析結果を学内に周知することにより、教員の意識が向上したと思われる。
- 4) 企業人材の協力を得た実践的な授業を通して、ものづくり教育に重点をおいた教育内容の大まかな方向性も見えてきつつある。
- 5) 新旧担任連絡会は初の開催であったが、活発な議論を通してより良い教育に向けての意識が高まった。
- 6) 「教務だより」の発行により、現状や課題に関する情報が共有でき、教育への意識が高まったと思われる。
- 7) 「学級担任の手引き」を通して、担任の役割を明確にすることができた。また、全教員に担任の重要性が再認識されたと思われる。
- 8) まだ改善点はあるものの、年間を通しての一連の教務関連処理は正常に動作することが検証された。

【課題】

- 1) 入学志願者数が少し減少した。
- 2) 中学校訪問、学校紹介、3高専合同PRなど精力的に行ったつもりであったが、それほどの効果がみられなかった。効果のある活動を模索する必要がある。
- 3) 到達度試験等の分析は行ったが、その改善への対応を具体的に検討・実施できなかった。
- 4) ～7) 現段階では特に課題はないと思われるが、更なる発展・充実を図りたい。
- 8) 現段階では特に課題はないと思われるが、今後セキュリティ面を十分考慮したうえで、教員が教務システムをより有効に利用できる環境を構築する必要がある。

<p>ACTION (チェックをした結果の対応) 残された課題に対し、何らかの対応をした項目について内容を記入してください (DOの通し番号と対応させること)。</p> <p>1)、2) 学科に協力を要請し、学科PRのパンフレットを作成した。また主事・主任連絡を通して学科の全面的協力の承諾を得た。これにより全学的な協力をもとに年間を通した有効なPR活動方策を検討・実施する予定である。</p> <p>3) 学習到達度試験については、担当者にe-learningを利用した演習などを含めた実力アップ方策の検討をお願いしている。</p> <p>4)～7) 特に行っていない。</p> <p>8) 現時点では特に行っていない。</p>
<p>PDCAの点検結果 PDCAが機能しているかどうか及びその理由について記入してください。</p> <p>(○) 機能している () ある程度機能している () 機能していない</p> <p>【理由】</p> <p>すべてのことが教務連絡会あるいは適宜教務委員会で協議・検討され実施される。その結果も常にフィードバックされ、改善に努めている。また主事等・担任連絡会や主事・主任連絡会にて学生等の状況が報告され、教育システムや体制における問題点の指摘もあり、改善に努めている。</p>
<p>当該報告書に関する自己評価委員会のコメント</p> <p>昨年度は不十分だった各種分析や結果の報告等がなされており、PDCAサイクルは機能してきている。また「学級担任の手引き」の改訂や「教務の手引き」が作成されるなど、努力のあとが窺える。これらをベースに、「真の実力の養成」の実現を望みたい。</p> <p>客観的な報告がなされ、PLANに基づいた地道な活動がうかがえると思います。</p> <p>ただ、CHECK【課題】4)～7)は特に課題はないとありますが、教育システム(特に再試験制度)に関しては課題にあがっていると思います。</p> <p>土木建築工学科の入試倍率の低下が今後懸念されるので特に対策が必要である。</p> <p>機能している。</p> <p>適切である。</p> <p>全体としてPDCAサイクルは機能していると思われるが、入学者の確保に関してはPLAN自体の具体性が乏しく、実際に行った活動もありふれていて、今後、さらなる検討が望まれる。</p> <p>特になし。</p> <p>年間行事予定の改善が期待される。</p>
<p>自己評価委員会のコメントに対する意見(対応策・反論等)</p> <p>・教育システム・体制・環境の改善に関する検討、「真の実力」の養成とその検証、学校をあげたPR活動など検討課題は多い。改善に向けて少しずつでも進めたい。</p>

各部署の活動状況報告書（平成21年度）

部署役職名：氏名 学生主事 原田 幸雄

各部署の平成21年度の活動について、PLAN、DO、CHECK、ACTIONの状況を、下記の表に記入してください。（記入欄の大きさは変更可）

PLAN（年度当初の活動方針・活動計画） 重点的に取り組もうとした事項を記入して下さい。

- 1) 校則の遵守（頭髪・服装指導の徹底）。
- 2) 特別活動（学生会活動、クラブ活動）の活性化。
- 3) 校内美化（ゴミの分別とリサイクル活動）。
- 4) 学生の安全確保（登下校時の交通ルールの遵守）。
- 5) 開催協力校として、中国地区高専体育大会を成功させる。

DO（実際に行った活動） 通し番号を振り、時系列で箇条書きにしてください。

- 1) 長期休業明け（4月、10月、1月）に全教員による頭髪・服装指導を行った。
- 2) 年間（8・2・3月は除く）を通して全教員による校内巡視を行った。
- 3) 4月上旬、新旧学生会役員の協力を得て新入生合宿研修を実施した。
- 4) 学生会リーダー研修会（4・2月）、クラブ紹介（4月）、クラスマッチ（5・10月）、学生会総会（5月）、高専祭（11月）、クラブ対抗駅伝（12月）、学生会選挙（12月）の行事の立案と実施について指導助言を行った。
- 5) 学生会が中心となって、5月中旬に徳山大学と合同で、11月中旬に本校独自で平原地区の清掃を行った。
- 6) 会議と重ならないように「クラブ活動の日（全教員がクラブ活動に参加する日）」を毎月第1・第3水曜日の放課後に曜日変更した。また、クラブ合宿指導を行った。
- 7) 「地球温暖化と3R活動」と題する全学生による学習会（4月）、リサイクル活動についての学生会風紀局環境委員会（5月）、ゴミ分別の徹底に関する環境マネジメント会議（6月）を開催し、ゴミ分別とリサイクル活動について学生の意識を高めた。また、クラス的环境委員を3名に増員し、学内のゴミ分別とリサイクル活動の徹底を図った。ハードの整備として、分別用のゴミ箱の新規設置を行った。
- 8) 学生主事室教員による立番を本校正門付近で、月1回（夏休み、春休みを除く）、11月～1月は月3回実施した。また、4月にバイク点検を3回、4月下旬に自転車整備点検を1回実施した。それと、4月中旬に交通安全指導講話、12月上旬にバイク講習会を行った。
- 9) 平成21年7月3日から3日間にわたって「第45回中国地区高専体育大会」（主会場：キリンビバレッジ周南総合スポーツセンター）を協力校として成功裏に開催した。
- 10) AEDの講習会（12月）を実施した。
- 11) 学生主事室教職員連絡会を毎週開催した。
- 12) 年間で13回の小中高・大学との補導連絡協議会や研修会に出席した。

CHECK（活動のチェック） 実際に行った活動により得られた成果、及び今後に残された課題（理由も含む）について記入してください（DOの通し番号と対応させること）。

【成果】

- 1) 頭髪・服装の指導基準の確認と校則遵守の意識が高まった。
- 2) 20年度に続き正門付近で喫煙をする学生は一人もいなくなったが、喫煙の習慣のある学生は皆無ではない。また、本校周辺に無断駐車する車輛は少なくなった。
- 3) 上級生及び教職員と触れ合う中で、本校の教育内容、学校行事などについて理解を深めさせることができた。
- 4) 学生会の事前の準備とチームワークのお陰で、どの行事も盛り上がった。
- 5) 学生会を中心としたボランティア活動が定着してきた。
- 6) 体育系のクラブ活動は活発である。文化系のクラブ活動の活性化を促す必要がある。
- 7) 学生会風紀局、クラス的环境委員と学生主事室の指導が相まって、ゴミの分別・リサイクル活動に関する本校の取り組みは軌道に乗りつつある。
- 8) 学生の交通事故は一件もなかった。
- 9) 中国地区8高専から開催競技（バレーボール、剣道、卓球、テニス）に420名の学生が参加し、全国大会出場を目指して練習の成果を発揮した。また、本校の一般学生が運営に積極的に協力し大会を盛り上げた。

- 10) 45名の教職員・学生がAEDの使い方とAEDを用いた一次救命行動についての講習を受けた。
- 11) 12) 情報交換により、学生指導に役立てることができた。
- 【課題】**
- 1) 頭髪・服装指導のさらなる徹底。
- 8) ・下校時における高専坂での自転車指導。
 ・送迎用自動車の校内乗り入れ時の動線を示す。
- 10) AEDの講習会は教職員が参加しやすい長期休業中の月～金に実施する。

ACTION (チェックをした結果の対応) 残された課題に対し、何らかの対応をした項目について内容を記入してください (DOの通し番号と対応させること)。

1) 頭髪指導について、個人指導を行った。

8) 送迎用自動車の校内への乗り入れについては、学内の同意を得ている。

PDCAの点検結果 PDCAが機能しているかどうか及びその理由について記入してください。

(○) 機能している () ある程度機能している () 機能していない

【理由】

年度当初の計画通りに実施できたものはよいが、そうでないものについては来年度どのように改善すればよいかを考える上での物差しとなる。

当該報告書に関する自己評価委員会のコメント

PDCAサイクルは機能してきている。あとは大きな問題として残されているマナーの向上、特に服装の乱れの解消について、結果を期待したい。

学生の礼儀作法や躰対策、校則遵守など今後も重視されることが望まれる。

機能している。

適切である。

方向性について全体での議論が無いまま活動したため、PLAN自体に具体性が欠けた。しかし実際の活動内容およびその結果は高く評価され、PDCAサイクルも機能している。

特になし。

ゴミの分別、リサイクル活動はよくやっている。

自己評価委員会のコメントに対する意見 (対応策・反論等)

・特になし。

各部署の活動状況報告書（平成21年度）

部署役職名:氏名 寮務主事 田村隆弘

各部署の平成21年度の活動について、PLAN、DO、CHECK、ACTIONの状況を、下記の表に記入してください。（記入欄の大きさは変更可）

PLAN（年度当初の活動方針・活動計画） 重点的に取り組もうとした事項を記入して下さい。

- 1) 健康管理（規則正しい生活リズムと食生活を促す。食事の欠食率は平均10%未満にする）
- 2) 安全管理（寮内での安全を確保し、犯罪を発生させない環境を作る）
- 3) 学習習慣のより一層の定着（学習環境整備、学習支援態勢づくり）
- 4) 清掃活動の徹底（去年の反省から）

DO（実際に行った活動） 通し番号を振り、時系列で簡条書きにしてください。

【最終報告】（平成22年3月31日）

- 1) 健康管理について
 - ・規則正しい生活リズムの判断基準を模索し、出欠席の状態を把握する案が出て、これを実施した。
 - ・欠食率の平均を10%未満とすることを目指し、食事内容の改善や規則（欠食手続き）の改定を行った。
- 2) 安全管理について
 - ・学寮規則を遵守するようアセンブリ毎に指導した。
 - ・火災予防の注意喚起を常におこなっていた。
- 3) 学習習慣の一層の定着について
 - ・学習成果の目標を、「寮生全体の平均点が通学生を上回るようにする。」として、学習意欲の向上に務めた。
- 4) 清掃活動について
 - ・清掃の質の向上を検討した。

CHECK（活動のチェック） 実際に行った活動により得られた成果、及び今後に残された課題（理由も含む）について記入してください（DOの通し番号と対応させること）。

【成果】

- 1) 健康管理について
 - ・出欠席の状態の調査結果については、別に資料を整えたが、全学年とも年間を通じて良好であった。
 - ・食堂業者との話し合いの結果、食事内容は味つけやボリュームに於いて（特に朝食で）大幅な改善が見られ、欠食率も改善された。しかし、欠食率の平均を10%未満とすることはかなり困難であった。
- 2) 安全管理について
 - ・年間を通じて、寮生全体で寮内はもとより学校でも主事訓告以上の処分行為等もなかった。
 - ・大きな事故はなかったが、留学生が調理中に豆を焦がし、火災報知器が鳴るトラブルあった。この反省から、留学生用の調理用コンロは、ガス式から電磁式に置き換えた。
- 3) 学習習慣の一層の定着について
 - ・年間を通じて通学生より成績が上回っていた。
- 4) 清掃活動について
 - ・寮生会の働きかけで3年生以上の寮生は、11月中旬より3週間に一度清掃活動を行うこととなり、寮生全体でより清潔な環境を目指す取り組みができた。

【課題】

- 1) 健康管理について
 - ・欠食率が高いことが、寮生が食事を採っていない状態、すなわち不健全な状態ではなく、手続き上やむを得ない場合も少なくないことが明らかになったが、引き続き本件については改善方法を検討して行く。
- 3) 学習習慣の一層の定着について
 - ・寮生全体で、1名の留年者が出たことを反省し、次年度、留年者を出さないことを課題とした。
- 4) 清掃活動について
 - ・清掃については平成22年度も継続的に改善することを課題とした。

<p>ACTION (チェックをした結果の対応) 残された課題に対し、何らかの対応をした項目について内容を記入してください (DOの通し番号と対応させること)。</p> <p>2) 安全管理について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・火災予防については、アセンブリ等での指導を強化した。 <p>3) 学習習慣の一層の定着について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・留年者を指導寮生として、寮生の学力アップを考えるようにした。 <p>4) 清掃活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清掃について、平成22年度も継続的に改善することを寮生会と話し合った。
<p>PDCAの点検結果 PDCAが機能しているかどうか及びその理由について記入してください。</p> <p>(○) 機能している () ある程度機能している () 機能していない</p> <p>【理由】</p> <p>1)健康管理、3)学習習慣の一層の定着、4)清掃活動については、前年より改善が進み、より向上していることが認められることから、PDCAは機能していると判断した。</p>
<p>当該報告書に関する自己評価委員会のコメント</p> <p>PLANに具体性があり、その後の対応も的確で、PDCAサイクルがよく機能している。めざしている目標も設定レベルが高く、努力の跡が窺われる。なお、PDCAの点検結果については自己評価を行っておくこと。</p> <p>管理が行き届き、機能している。寮生の学習成績の更なる向上が期待される。</p> <p>ある程度機能している。</p> <p>適切である。</p> <p>PLANとDOの関連性が曖昧で、疑問が残るが、全体としてPDCAサイクルは機能している。</p> <p>特になし。</p> <p>管理がゆきとどいている。</p>
<p>自己評価委員会のコメントに対する意見(対応策・反論等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「PLANとDOの関連性が曖昧」との指摘に対しては、今後、これをいかに的確なものにしてゆか検討してゆく。 ・学寮の問題は、一度に解決することは難しいことが多いが、これから目標を定めつつ、時間を掛けながら、改善してゆく。

各部署の活動状況報告書（平成21年度）

部署役職名:氏名 専攻科長 天内 和人

各部署の平成21年度の活動について、PLAN、DO、CHECK、ACTIONの状況を、下記の表に記入してください。（記入欄の大きさは変更可）

<p>PLAN（年度当初の活動方針・活動計画） 重点的に取り組もうとした事項を記入して下さい。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 専攻科における英語教育目標（修了要件を含む）の年次計画策定・ エンジニアリング・デザイン教育プログラムの検討・ 「ものづくり技術者育成支援事業」のまとめ、評価と再検討・ 「専攻科特別研究」の強化・ 山口県内3高専専攻科間の連携強化
<p>DO（実際に行った活動） 通し番号を振り、時系列で箇条書きにしてください。</p> <ol style="list-style-type: none">1) 専攻科を中心に「英語力向上タスクフォース II」を開催し、本科を含めた英語教育に関わる答申をまとめた（平成22年5月末に提出予定）。2) 日本工学教育協会主催のエンジニアリング・デザイン教育に関するセミナーに参加するとともに、オーストラリア・ワランゴン大学においてエンジニアリング・デザイン教育の事例調査を実施した。3) 「ものづくり技術者育成支援事業」の最終年度を迎え、9月にフォーラムを開催、1月には全国GPフォーラムでその成果を発表し、事業の評価および内容の再検討を行った。4) 3高専合同中間発表会、中四国交流会、専攻科HR等により特別研究及び学修成果作成の指導を強化した。5) 平成22年度からの専攻科時間割改正を決定し、これまでの変則的な時間割を改正するとともに、特別研究等に充てる時間数を増やした。6) 山口県内3高専連携事業として、専攻科1年生の特別研究中間発表会を大島商船で開催した。平成20年度に引き続き専攻科長が宇部高専「工学特論 II」の非常勤講師として授業を担当した。また平成22年度には「経営管理工学」を宇部高専との遠隔授業として実施することを決定した。7) オーストラリア・ワランゴン大学で5名が海外長期インターンシップを実施した。8) 「はつらつ長州ファンド」など外部資金に積極的に応募した。
<p>CHECK（活動のチェック） 実際に行った活動により得られた成果、及び今後に残された課題（理由も含む）について記入してください（DOの通し番号と対応させること）。</p> <p>【成果】</p> <ol style="list-style-type: none">1) 「英語力向上タスクフォース II」を開催し、英語教育に関わる答申をまとめた。2、3) 「ものづくり技術者育成支援事業」を完了し、海外のエンジニアリング・デザイン教育プログラム等の調査により、今後の改善に向けて課題を把握した。4) 専攻科2年生全員が修了要件をクリアするとともに、学会発表件数、論文掲載件数も3年連続で増加し、平成12年度以降、最も多い件数となった。6) 3高専中間発表会の実施、宇部高専専攻科における講義の担当を継続することにより、3高専の専攻科生や担当教員と、本校教員との交流が深まった。また、平成22年度から遠隔授業の実施を決定した。 <p>【課題】</p> <ol style="list-style-type: none">2、3) エンジニアリング・デザイン教育として教育プログラム全体の評価・改善が次年度以降必要である。6) 専攻科特別研究の共同指導体制の確立等、専攻科のより一層の連携強化が望まれる。7) 海外インターンシップでは、派遣した学生の英語力が問題となり、今後の検討課題となった。8) 専攻科独自での外部資金は取得できなかった。 <p>*DO項目には対応しないが、今後、保護者会の充実や、進路やメンタル面を含めた相談体制の確立等、専攻科生に対してよりきめこまやかな対応が必要である。</p>

ACTION (チェックをした結果の対応) 残された課題に対し、何らかの対応をした項目について内容を記入してください (DOの通し番号と対応させること)。

2、3) エンジニアリング・デザイン教育プログラムの改善のため、平成22年度にはワーキング・グループの立ち上げを計画している。

7) 平成22年度からオーストラリアの大学に派遣する学生は、TOEICスコア470以上に制限することとした。他の海外希望者は、ニューージーランドにおける語学研修に本科生とともに参加させることを予定している。

8) 引き続き外部資金獲得の努力を続ける。

* 保護者会を実施し、保護者との連携強化を促進した。専攻科長自ら学生相談室員として専攻科生のメンタル面での問題に対応した。

PDCAの点検結果 PDCAが機能しているかどうか及びその理由について記入してください。

(○) 機能している () ある程度機能している () 機能していない

【理由】

課題を残しつつも、学位授与試験およびTOEICへの対策を強化した結果、3年間連続で2年生全員29名が修了要件をクリアし、学会発表、掲載論文数とも大幅に増加した。「英語力向上タスクフォースII」では、学校全体の英語教育に関する議論を通して、今後、本校が取り組むべき英語教育に関する答申をまとめた(5月末に答申提出予定)。「ものづくり技術者育成支援事業」を完了した。オーストラリアの大学における海外長期インターンシップを継続し、教育の国際化に一層努めた。

当該報告書に関する自己評価委員会のコメント

専攻科生のレベル向上に向け、必要とされる対応策に意欲的に取り組んでおり、結果も伴うなど、PDCAサイクルがよく機能している。

特別研究重視の教育が期待される。

機能している。

適切である。

専攻科生の数が増えており、定員が守られていない。定員の増加か専攻科生数の削減が必要ではないか。推薦入試の進学者数が増えすぎではないか(特定の学科だけか?)。推薦基準の見直しが必要ではないか。

外部資金取得と長期海外インターンシップのバランス。

自己評価委員会のコメントに対する意見(対応策・反論等)

・ 専攻科生の数は、全国的な専攻科生数の増加を考えると、3専攻を全体として考えれば異常な数ではない。この問題への対応は、定員の増加と3専攻から1専攻への改組によるのが適切であると考えているが、これらの対応は専攻科単独で決定することではなく、学校全体の方針として申請(実施)を検討すべきことである。推薦基準の見直しは実施を予定しているが、学力入試で大学編入や就職の滑り止めとして入学してくる学生より、むしろ推薦入試で自ら望んで入学してくる学生の方が、専攻科で目指す学習・教育目標を達成するため適切な人材である。

・ 進学者の問題としては、むしろ専攻科生数の専攻によるアンバランスが問題であり、各学科で今後の方針を十分議論していただきたい。

各部署の活動状況報告書（平成21年度）

部署役職名：氏名 一般科目主任 大橋 正夫

各部署の平成21年度の活動について、PLAN、DO、CHECK、ACTIONの状況を、下記の表に記入してください。（記入欄の大きさは変更可）

<p>PLAN（年度当初の活動方針・活動計画） 重点的に取り組もうとした事項を記入して下さい。</p> <ol style="list-style-type: none">1) 学生の英語力をさらに伸ばす方策を検討するために、英語力向上タスクフォースⅡを立ち上げる。また、そこで決定したことを実行する。2) 学生に技術者として必要な理数能力を身につけさせる。現状分析を行いつつ、高専機構到達度試験結果の効果的な活用を図る。3) 豊かな教養を育成するために、クラブ活動との連携を模索する。
<p>DO（実際に行った活動） 通し番号を振り、時系列で箇条書きにしてください。</p> <ol style="list-style-type: none">1) 英語力向上タスクフォースⅡを立ち上げて、本校の英語教育のあり方について審議した。2) 数学および物理の学習到達度試験結果から、本校の学生の理数能力の実態を確認したところ、能力差が大きいことが明らかになった。物理では、低学力の学生の補習教育体制として、ICTを活用する環境整備（サーバー、クライアント用PC、ソフトウェアなど）を行い、年度末の成績不振者を対象とした試行を行った。3) 手始めとして、まず美術部において、哲学の授業とクラブ活動との連携を模索した。クラブ活動として、部員に哲学の講義を行った。
<p>CHECK（活動のチェック） 実際に行った活動により得られた成果、及び今後に残された課題（理由も含む）について記入してください（DOの通し番号と対応させること）。</p> <p>【成果】</p> <ol style="list-style-type: none">1) 答申を平成22年5月末に提出する予定である。2) 数学および物理の学習到達度試験結果より、到達度の低い分野が確認できた。物理については、整備したICT活用の補習のための環境を学生が活用する方策の検討が必要であることが明らかになった。3) 美術部の部員は、美術に関する教養を深めることができた。 <p>【課題】</p> <ol style="list-style-type: none">1) 今後、答申内容を実行する。2) 到達度の低い分野について、教育方法の検討を行い、実行すること。3) クラブ活動全般に、このような連携を広げることに困難を感じている。
<p>ACTION（チェックをした結果の対応） 残された課題に対し、何らかの対応をした項目について内容を記入してください（DOの通し番号と対応させること）。</p> <ol style="list-style-type: none">1) 答申内容を検討中。2) 教育方法の検討を行っている。3) PLANの適否について検討を行っている。
<p>PDCAの点検結果 PDCAが機能しているかどうか及びその理由について記入してください。</p> <p>（ ）機能している (○) ある程度機能している () 機能していない</p> <p>【理由】</p> <p>ある程度適切に前進していると思われる。</p>

当該報告書に関する自己評価委員会のコメント

学生の資質向上に向け、まだ十分組織が機能している状況にはない。めざすべき目標をより具体的にし、それをどう実現するか、検討が必要である。

ICT教育の充実が望まれる。

機能している。

適切である。

1つの学科として、今後、本校の教育プログラムへどのように貢献してゆくべきかをきちんと検討し、明確な中期的目標をもってPLANを策定し活動するべきである。PDCAサイクルが存在するとは思えない。

2)の学習到達度試験結果について、物理の対応は記載されているが、数学の対応が記載されていない。

豊かな教養とクラブ活動補習の充実が期待される。

自己評価委員会のコメントに対する意見(対応策・反論等)

- ・英語教育については、前回のコメントと同様に、ひきつづきPDCAサイクルが機能していると考えられる。
- ・数学と物理についても、学習到達度試験の結果から、到達度の低い分野が確認できたことから、PDCAサイクルがその緒についたと考えられる。
- ・今回も、コメントについては、委員会内での議論がなく、各委員のコメントの単なる羅列となっている。
- ・正反対のコメントや意味のよくわからないコメントがある。

各部署の活動状況報告書（平成21年度）

部署役職名:氏名 機械電気工学科主任 藤田 重隆

各部署の平成21年度の活動について、PLAN、DO、CHECK、ACTIONの状況を、下記の表に記入してください。（記入欄の大きさは変更可）

<p>PLAN（年度当初の活動方針・活動計画） 重点的に取り組もうとした事項を記入して下さい。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 本科学生に受験できる外部資格(機械技術者試験、CAD 検定、危険物取扱者乙種、ボイラー試験等)について周知し、それらの取得の受験指導を引き続き行う。2. 2年生および4年生に実施するインターンシップに対して、実施予定企業名を公表し、積極的に参加するように指導する。また、それらの報告会を実施する。さらに、4年生のインターンシップ参加者の増加に対応すべく各企業訪問時にインターンシップの受け入れを要請する。3. 校内見学会の参加者が、機械電気の企画への参加が容易になるように実施する場所を集約できるように検討する。また、機械電気工学科を理解しやすい内容にして、本学科にさらに興味を持つように引き続き努力する。
<p>DO（実際に行った活動） 通し番号を振り、時系列で箇条書きにしてください。</p> <ol style="list-style-type: none">1) MEの全学生に対して外部資格(CAD 検定、危険物取扱者乙種、ボイラー試験等)について授業を通じて周知し、希望者がそれぞれの外部資格を受験するように指導した。2) 担当がME4年生にインターンシップの意義を説明し、学生の動機づけを図った。その後、各企業のインターンシップ受入計画を各企業に照会し、必要に応じて要請した。各企業のインターンシップ募集要項および一覧を教室に公開した。実施期間中に、担当が数社を訪問した。終了後には報告書を提出させ、また不参加の学生も含めクラス全員参加で報告会を実施し、情報を共有した。就職担当教員による企業訪問時には、インターンシップの受け入れの要請を各企業に行った。 ME2年生については、4月より企業にインターンシップ受け入れを打診したこと、山口県経営者協会からの要請で同協会のコーディネートによって受入企業を決定した。担当教員が学生の希望と住所等を考慮してインターンシップ先の企業を決定した。8月と9月に参加した2年生は、合計8名であり、全ての企業を教員が訪問した。終了後8人全員に、その成果報告書を提出させ、その発表会を実施した。3) 前期に実施された校内見学会において、機械電気工学科の企画を工場付近に集約し、参加者が見学しやすい様にした。また、企画の変更を2～3行った。
<p>CHECK（活動のチェック） 実際に行った活動により得られた成果、及び今後に残された課題（理由も含む）について記入してください（DOの通し番号と対応させること）。</p> <p>【成果】</p> <ol style="list-style-type: none">1) 21年度の機械電気工学科学生の外部資格取得状況は、CAD 検定2級3名、ボイラー技術士2級10名、危険物取扱者乙種9名の合格者である。2) ME4年生については、ほぼ全ての学生がインターンシップに興味を持つようになった。受入実績のある企業は、打診すれば受け入れてもらえる状況を確認し、業種や実施期間から参加可能な企業を選定できた。参加した学生だけでなく、全員が受入企業の業務内容や雰囲気を理解した。参加した全員が、ほぼ希望通りのインターンシップを実施できた。 ME2年生の参加した学生8人は、報告会で実際の企業の仕事の内容や、挨拶や時間の厳守の大切さを実感した。3) UFO キャッチャーなどの新企画は、参加者に好評であった。これに関連して、学生志願者の中で機械電気工学科の第一志望者は若干増加している。 <p>【課題】</p> <ol style="list-style-type: none">1) 他の行事と日程が重なる場合があるため、各種資格試験を受験できないこともあり、資格試験の取得人数がまだ少ないと思われるので、今後学生に対する説明をいっそう充実させる必要がある。2) ME4年生のインターンシップは希望者が多かったが、全国高専体育大会や資格試験等の日程が合わず、参加を断念した学生が多く、参加者は14名にとどまった。学生は、就職を念頭において選んでおらず、また会社を絞れず応募期限が過ぎてしまうケースもあった。報告会までの学生自身の準備が不十分で、実習内容を説明できていない学生もいた。申込みから受入企業決定までの期間が非常に長かったため、実施計画の決定が大幅に遅れた。

<p>ME2年生のインターンシップも、全国高専体育大会等との日程が重なり、参加できない学生がいた。</p> <p>3) 実習工場内の企画が少し多いためか、見学者が渋滞を起こしている状況もあった。</p>
<p>ACTION (チェックをした結果の対応) 残された課題に対し、何らかの対応をした項目について内容を記入してください (DOの通し番号と対応させること)。</p> <p>1) 資格試験が他の行事と日程が重なる場合、別日程の受験が可能な場合は、そのように指導した。 また、学科が推奨する資格試験を絞り、申し込み期間や試験日がわかるカレンダーを作成した。さらにe-learningシステムを利用した資格試験推奨を検討している。</p> <p>2) 2年次・3年次のキャリア支援プログラム(職業興味調査等)の結果をもとに、興味のある学生に受入企業を勧めた。郵送で募集要項を送ってきた企業へ参加を優先し、サイトへのエントリーで申し込む場合は、直接の電話連絡も同時に行った。</p> <p>3) 次年度は、スムーズな見学ができるように、教室会議等でさらに検討する予定である。</p>
<p>PDCAの点検結果 PDCAが機能しているかどうか及びその理由について記入してください。</p> <p>() 機能している (○) ある程度機能している () 機能していない</p> <p>【理由】各担当者がなすべき仕事をこなしており、ほぼ満足の行く結果であった。</p>
<p>当該報告書に関する自己評価委員会のコメント</p> <p>めざすべき目標が、学生の資質向上への間接的対応レベルにとどまっており、どのような学生を育てるのか外部には不明確で、PDCAサイクルもあまり機能しているようには見受けられない。なお、報告書には誤字が散見されるため、見直されたい。</p> <p>機能している。学校行事などの適切な日程調整が課題。</p> <p>機能している。</p> <p>適切である。</p> <p>目標を明確にしてPLANを立てるべきである。中心的な学科として、今後、本校の教育プログラムへどのように貢献してゆくべきかを検討し、明確な中期的目標をもってPLANを策定し活動して欲しい。PDCAサイクルはあまり機能していない。</p> <p>特になし。</p> <p>インターンシップ、高専大会と学校行事の日程調整に困難を感じる。</p>
<p>自己評価委員会のコメントに対する意見(対応策・反論等)</p> <p>・ご指摘ありがとうございました。入力ミスを修正させていただきました。</p>

各部署の活動状況報告書（平成21年度）

部署役職名:氏名 情報電子工学科主任 山田 健仁

各部署の平成21年度の活動について、PLAN、DO、CHECK、ACTIONの状況を、下記の表に記入してください。（記入欄の大きさは変更可）

<p>PLAN（年度当初の活動方針・活動計画） 重点的に取り組もうとした事項を記入して下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育研究プロジェクト（「実践的コンピュータ技術者育成のためのリテラシー教育の新展開（TeCプロジェクト）」、「ものづくり技術者育成支援事業」）の遂行。 ・教科改善プロジェクト（「企業技術者等活用プログラム」、「ITビジネスを考慮したエンジニアリングデザイン教育プログラムの開発」）の遂行。 ・学科将来構想の立案。 ・情報処理技術者資格、電気通信工事担任者資格の取得に向けた学生支援。 ・「プロコン」「パソコン甲子園」「ロボコン」などに対する学生支援。 ・校舎改修に伴い、教員室、研究室の統合整備を行う。
<p>DO（実際に行った活動） 通し番号を振り、時系列で箇条書きにしてください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 教育研究プロジェクト2件を遂行した。 2) 教科改善プロジェクト2件を遂行した。 3) 情報処理技術者資格、電気通信工事担任者資格の取得に向けた学生支援を行った。 4) 「プロコン」「ロボコン」「情報オリンピック」に対する学生支援を行った。 5) 校舎改修に伴う、教員室、研究室の統合整備を行った。
<p>CHECK（活動のチェック） 実際に行った活動により得られた成果、及び今後に残された課題（理由も含む）について記入してください（DOの通し番号と対応させること）。</p> <p>【成果】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 「TeCプロジェクト」関連の学会発表で、専攻科生が電気学会中国支部奨励賞を受賞した。「ものづくり技術者育成支援事業」では、専攻科総合実験、専攻科総合演習とも順調に実施され、指導書などの開発も達成された。また、成果の一端を論文誌に掲載した。 2) 「企業技術者等活用プログラム」を活用し、基礎電気回路（本科1年）、電気回路（本科2年）関連の教材を開発した。また、チームティーチングによる実験演習指導が充実した。「ITビジネスを考慮したエンジニアリングデザイン教育プログラムの開発」によりソフトウェア工学関連授業設計を行い実施した。また、その成果について学会発表を3件行った。 3) 情報処理技術者資格に関しては、卒業時取得者5割を目標としているが、今年度は6割の取得率を達成した。 4) 「プロコン」は全国大会で良好な成績を挙げ、雑誌（日経ソフトウェア）に取り上げられた。「情報オリンピック」では、IE2年生が中国・四国ブロック優秀賞を獲得し、世界大会選手候補に選出された。「中国地区コンピュータフェスティバル」において2部門で1位を獲得した。 5) 西側校舎改修により、教員室、研究室の統合が行われ、研究室間の連携がとれる体制となった。 <p>【課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> 3) 電気通信工事担任者資格の取得支援を行っているが受験者が少ない。 4) 「情報オリンピック」参加者が少ない。
<p>ACTION（チェックをした結果の対応） 残された課題に対し、何らかの対応をした項目について内容を記入してください（DOの通し番号と対応させること）。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)、2) に関して、継続事業とするため、予算獲得を継続している。 3) 電気通信工事担任者資格は、需要の問題があるため受験者数が少ないが、今後とも推奨資格として支援する。 4) 担当教員を決め、周知を行うとともに関連科目の充実を図り、参加を働きかけている。
<p>PDCAの点検結果 PDCAが機能しているかどうか及びその理由について記入してください。</p> <p>(○) 機能している () ある程度機能している () 機能していない</p> <p>【理由】</p> <p>年度計画の達成状況が把握できる。</p>

当該報告書に関する自己評価委員会のコメント

PLAN に具体性があり、PDCA サイクルが機能している。これらをベースに、学生全体のさらなるレベル向上を期待したい。

CHECK の【成果】に具体的な数字が記載されており、よく取り組まれていると思います。ただ、PLAN にある学科将来構想の立案に関する項目が以後にありません。

機能している。

機能している。

適切である。

PDCA サイクルはよく機能していると思われるが、学科の将来構想立案に関する活動や学科内教員に対する FD 活動が見あたらないのは残念である。

特になし。

よく機能している。

自己評価委員会のコメントに対する意見(対応策・反論等)

・学科将来構想の立案に関しては、カリキュラムの見直しなどの活動は継続しているものの、学校全体（機構全体）の中期計画の提示の遅れもあり、苦慮している状況であった。年度末に高度化検討 WG の設置の話があり、その際、学科の将来に亘った基本方針を提示した。しかしながら、この件に関しては、WG で継続検討することになっており、来年度の宿題と考えている。

・FD 活動としては、学科会議での情報交換（特に担任からのクラス報告）が最も重要と考えており、月二回の定例会議を開催している（議事録はあるが、担任からの情報は個人名が多いため公開記録には残さない方針としている）。その他、授業間の情報交換、チーム授業での授業後の打ち合わせ会、企業技術者との授業打ち合わせなどを行っているが、全体を把握できていない状況である。このような活動記録を情報共有できる適切なシステムを自己評価委員会などで準備していただきたい。

各部署の活動状況報告書（平成21年度）

部署役職名:氏名 土木建築工学科主任 橋本 堅一

各部署の平成21年度の活動について、PLAN、DO、CHECK、ACTIONの状況を、下記の表に記入してください。（記入欄の大きさは変更可）

<p>PLAN（年度当初の活動方針・活動計画） 重点的に取り組もうとした事項を記入して下さい。</p> <ul style="list-style-type: none">・昨年度改定したカリキュラムをスムーズに行えるよう環境を整える。・志願者の確保に対しては、結果の残せるような対策をたて、対応する。・学生のサポート体制については、やるべきことを明文化して機能が果たせるようにする。・空いている教員ポストに最善な人員を確保し、新しいカリキュラムにうまく対応できるようにする。・教員の研究面への対応については、学科主任として対象の教員と面談を行って、意見を伝えている。また、いい環境で研究ができるように研究費の補助や担当科目の軽減、さらには特別研究や卒業研究の担当に対する配慮も行って <p>いる。</p>
<p>DO（実際に行った活動） 通し番号を振り、時系列で箇条書きにしてください。</p> <ol style="list-style-type: none">1) 年度末に急に1教員が辞職することになり、前期は定員の2名減でスタートしたが2学年から5学年の授業に非常勤講師を配置して、新カリキュラムの1学年の授業は常勤スタッフで対応し、うまく新カリキュラムの移行に順応できた。2) 志願者の確保に対して学科パンフレット、学科オリジナルのボールペンとクリアフォルダを作って校内見学会等で配布したが、結果に反映することはできなかつた。政府の方針等が大きく影響しているため、学科名の変更等、抜本的な対策が必要である。3) 学生のサポート体制については、校舎改修で研究室確保が機能不足で十分活動ができていない。来年度改めて議論をし、改善していく必要がある。4) 教員スタッフの採用に対しては、OB2名の採用が決まり、学科運営がさらに強化される。
<p>CHECK（活動のチェック） 実際に行った活動により得られた成果、及び今後に残された課題（理由も含む）について記入してください（DOの通し番号と対応させること）。</p> <p>【成果】</p> <ol style="list-style-type: none">1) ほとんどの教員が専攻科を受け持つ資格を得て、増加している専攻科の学生の指導の充実する見通しができた。2) 定員を満たす教員スタッフを得て、カリキュラム運営が強化される見通しとなった。 <p>【課題】</p> <ol style="list-style-type: none">1) 充実している学科機能を外部に理解していただき、優秀な志願者の確保に努めることが急務である。2) 一部の教員に学位がないので早い時期に取得していただき、さらに学科運営の充実を努める必要がある。
<p>ACTION（チェックをした結果の対応） 残された課題に対し、何らかの対応をした項目について内容を記入してください（DOの通し番号と対応させること）。</p> <ol style="list-style-type: none">2) の志願者確保に対しては、学科で中学校訪問して、魅力ある学科であることをアピールする等を検討する話し合いを持ち実行する予定である。3) についてはこれまで初めて学科の留年者がなしという成果も得ているが、さらに見直しを図り改善していくこととしている。
<p>PDCAの点検結果 PDCAが機能しているかどうか及びその理由について記入してください。</p> <p>() 機能している (○) ある程度機能している () 機能していない</p> <p>【理由】</p> <p>志願者の減少に歯止めが利かない傾向にあるが、在学生の指導については留年者を出さないで、処分者もほとんどなく充実した1年となった。</p>

当該報告書に関する自己評価委員会のコメント

PLANに具体性があり、PDCAサイクルはある程度まで機能している。志願者の減少ならびにそれに伴う入学者のレベル低下に関しては、さらに知恵をしぼる必要がある。

機能している。学科あげての入試と求人倍率向上の対策が期待される。

機能している。

適切である。

PDCAサイクルはほぼ機能している。志願者確保のための抜本的な改革は学校全体での議論を通じて計画すべき事項である。

特になし。

よく機能している

自己評価委員会のコメントに対する意見(対応策・反論等)

・評価をいただいたかたちになっているので、安堵の気持ちを持っています。主任をおりましたが、さらに、効果が出せるように協力していきたいと思います。

各部署の活動状況報告書（平成21年度）

部署役職名:氏名 総合企画室長 百田 正広

各部署の平成21年度の活動について、PLAN、DO、CHECK、ACTIONの状況を、下記の表に記入してください。（記入欄の大きさは変更可）

<p>PLAN（年度当初の活動方針・活動計画） 重点的に取り組もうとした事項を記入して下さい。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 第2期中期計画の策定および各部署の年次計画作成依頼・調整に関する事・ 科研費や各種外部資金などの獲得に向けた総合調整に関する事・ 対外的な業務の総合調整に関する事
<p>DO（実際に行った活動） 通し番号を振り、時系列で箇条書きにしてください。</p> <ol style="list-style-type: none">1) 第2期中期計画を策定した。各部署に年次計画作成を依頼し、新年度に引き継ぐ予定である。2) 山口大学との外部資金獲得への応募や他高専との外部資金獲得への応募や、科研費応募キャンペーンを実施し応募増を試みた。3) 周南市、徳山大学との3者連携協力推進会議、宇部高専、大島商船との3高専連携会議を実施した。山口県主催のフェスティバル等への出展、HPや高専だより等の作成等、積極的に広報活動を行った。
<p>CHECK（活動のチェック） 実際に行った活動により得られた成果、及び今後に残された課題（理由も含む）について記入してください（DOの通し番号と対応させること）。</p> <ol style="list-style-type: none">1) 【成果】中期計画を公表できた。【課題】各部署が実施できているかの確認と、修正が今後の課題である。2) 【成果】ひと・輝きプロジェクトに3件、企業技術者等活用プログラム等が採択されたが、金額の大きな外部資金は不採択となった。科研費に関して、応募数は昨年と変わらない結果となったが、各自が外部資金を獲得する意識の向上は図れたと考える。【課題】外部資金獲得へ積極的に応募する必要がある。3) 【成果】周南市と共同で周南ロボコンの実施、3高専合同での高専PR活動を長門地区で実施した。【課題】ホームページの見直しを行う。
<p>ACTION（チェックをした結果の対応） 残された課題に対し、何らかの対応をした項目について内容を記入してください（DOの通し番号と対応させること）。</p> <ol style="list-style-type: none">1) 新年度、新たに修正等が必要になった場合は実施する。2) 評価結果をもとに再チャレンジを計画している。次年度の新規の外部資金への応募に付いては、学科主任にお願いするのではなく、全教員にメールで情報発信したところ応募希望者があられ、教員会議で内容の周知を行い、協力をお願いを行った。3) HPに関しては、新年度、1年間かけて検討を行う予定である。
<p>PDCAの点検結果 PDCAが機能しているかどうか及びその理由について記入してください。</p> <p>(○) 機能している () ある程度機能している () 機能していない</p> <p>【理由】</p> <p>上記に示すように、当初立てたプランに対してPDCAサイクルが機能していると考えられる。</p>

当該報告書に関する自己評価委員会のコメント

報告書に書かれているPLANに対していえば、PDCAサイクルは機能しているといえる。ただ、役割が「調整」のレベルでいいのかどうか、特にコトが順調に進んでいないようなたとえば外部資金獲得のような場合、「依頼」や「調整」段階を超える必要もあるのではないかと。

機能している。

機能している。

概ね適切であるが、外部資金獲得のための「総合調整」がなされていたかについては不明であり、判断できない。

総合企画室が、どのような機能をもつべきなのか、すなわち調整するだけなのか、それとも本格的に学校全体を動かすための企画をするべき部署なのかを考え、その上で具体的なPLANを策定した方がよい。PDCAサイクルはある程度機能していると考えられるが、今後、どのようにスパイラルアップする計画なのか疑問が残る。

特になし。

特になし。

自己評価委員会のコメントに対する意見(対応策・反論等)

・特にありません。

各部署の活動状況報告書（平成21年度）

部署役職名:氏名 学生相談室長 櫻本 逸男

各部署の平成21年度の活動について、PLAN、DO、CHECK、ACTIONの状況を、下記の表に記入してください。（記入欄の大きさは変更可）

<p>PLAN（年度当初の活動方針・活動計画） 重点的に取り組もうとした事項を記入して下さい。</p> <ul style="list-style-type: none">・毎週開催するミーティングを軸とした日々の学生相談活動・新入生アンケートや検査の実施およびそれに伴う分析や相談の実施・外部団体主催の研修会への参加・学生や教職員に対する各種講習会や講演会の実施
<p>DO（実際に行った活動） 通し番号を振り、時系列で箇条書きにしてください。</p> <ol style="list-style-type: none">1) 年度初めの新入生へのアンケート実施とそれを基にした気になる学生への相談実施2) 外部講師による1年生対象の男女共同参画社会に関する講習会の実施3) 新入生アンケート結果を研究紀要で報告4) 1年生対象シグマ検査の実施5) 外部団体主催の大学、高専関係のメンタルヘルス研修会への参加6) 週1回のスタッフミーティングの実施(合計26回実施)7) 日々の学生相談活動
<p>CHECK（活動のチェック） 実際に行った活動により得られた成果、及び今後に残された課題（理由も含む）について記入してください（DOの通し番号と対応させること）。</p> <p>【成果】</p> <ol style="list-style-type: none">1) 新入寮生全員、3年留学生、4年編入生、アンケートで気になる学生の計57名に面談勧誘の手紙を送付した。実際に、13名が相談に訪れた。昨年度に比較して10名減ったが、面談勧誘手紙の効果はあったようだ。2) 昨年と同様の周南市職員による講習会であったが、1年生に対しても分かりやすい内容であった。3) 入学時と前期末に計2回のアンケートを実施し、比較を行った。新入生の気持ちの変化がよく表れていた。4) シグマ検査は、本人の自己理解のツールおよび個々の学生の性向を知るツールとして使用した。各学生および学級担任に結果を通知し、有効に活用することができた。5) 2種類の研修会に、スタッフと看護師が参加した。他教育機関の学生相談に関する情報も得られ、有益な研修会であった。発達障害に関する内容が多かったようである。6) 授業期間中は、ほぼ毎週ミーティングを実施し、学生の心のケアについての対応を行った。場合により、学級担任やカウンセラーなども交え、カウンセラーや各機関とのコミュニティワークを可能な限りとることができた。今年度は、専攻科および上級生に問題を抱えた学生が見られた。7) 学生の相談実績は、看護師&カウンセラー対応29名(89件)、教員対応42名(80件)の合計107名(196件)であった。今年度から相談とみなす基準を少し厳しくしたせいかな昨年度よりも相談件数が減少している。しかしながら、特定の学生に対する対応がかなり長期化したため、内容は濃いものとなっている。 <p>【課題】</p> <p>毎年のことであるが、各教員の業務が多忙なため、学生と関わる時間が限定されている。他の業務の効率化を実施し、学生と関わる時間を増やすことが望まれる。また、年度が変わる際の引継ぎを行うことが難しい業務であるため、相談室員は半数が残るような形での複数年の担当が望ましい。</p>
<p>ACTION（チェックをした結果の対応） 残された課題に対し、何らかの対応をした項目について内容を記入してください（DOの通し番号と対応させること）。</p>

PDCAの点検結果 PDCAが機能しているかどうか及びその理由について記入してください。

(○) 機能している () ある程度機能している () 機能していない

【理由】

問題を抱えた学生とその内容は毎年変化するため、それらに対して十分なケアができたかどうかを判断するのは困難であるが、学生相談室全体の運営に関するPDCAは機能していると思われる。

当該報告書に関する自己評価委員会のコメント

表面的に大きな問題も現れず、PDCAサイクルはよく機能している。

機能している。

ある程度機能している。

適切であるが、【課題】の解決には、学校側の配慮が必要である。

学生相談室の業務は、その性質上難しいことが多く、個々の事例に対応することで精一杯という現実がある。しかしながら、最近、学生・教職員にメンタルな問題を抱えるケースが増加しているため、これらに関する啓蒙活動は、より積極的にPLANに取り入れて実施するべきであると思う。PDCAサイクルはほぼ機能している。

ACTIONの記載がない。

よく機能している。

自己評価委員会のコメントに対する意見(対応策・反論等)

・メンタルヘルスに関する啓蒙活動として、一昨年度までに、PTSD、自殺、発達障害などに関する教職員対象の研修会を開催してきた。昨年度は、教職員対象の研修会は開催しなかったが、これらについての啓蒙活動は、たとえ同じ内容であっても継続的な実施が必要であると思われる。毎年実施する必要はないので、数年ごとに間をおいての開催が望ましいと思う。

・また、学生相談室自体のPRは必要なことではあるが、あまり門戸を広げすぎると、相談室スタッフ、カウンセラーの業務の多忙さが増し、本当に必要な学生のケアが妨げられる可能性がある。特に、看護師に一番負担がかかるので、そのあたりを十分配慮すべきである。

・課題の解決については、実際にアクションを起こすのは難しいので希望レベルである。そのため、記述をしていない。来年度からの校務分担において考慮頂ければ幸いである。

各部署の活動状況報告書（平成21年度）

部署役職名：氏名 学習・教育レビュー室長 義永 常宏

各部署の平成21年度の活動について、PLAN、DO、CHECK、ACTIONの状況を、下記の表に記入してください。（記入欄の大きさは変更可）

<p>PLAN（年度当初の活動方針・活動計画） 重点的に取り組もうとした事項を記入して下さい。</p> <ul style="list-style-type: none">・公開授業ならびに特別公開授業の実施・平成20年度成績評価資料レビュー・新教務システムから取得のWeb授業アンケートシステム用データの確認・授業アンケートの実施・卒業生・修了生学習達成度評価アンケート調査・平成22年度シラバスチェック
<p>DO（実際に行った活動） 通し番号を振り、時系列で箇条書きにしてください。</p> <ol style="list-style-type: none">1) 平成20年度成績評価資料チェック（5月～8月（ピアレビューを含む））2) 公開授業（前期4回、後期4回）とレビュー会実施（プレレビュー、ポストレビューを含む）3) 前期授業アンケート実施4) 後期授業アンケート実施5) 卒業生・修了生学習達成度評価アンケート調査（3月）6) 平成22年度シラバスチェック（3月）
<p>CHECK（活動のチェック） 実際に行った活動により得られた成果、及び今後に残された課題（理由も含む）について記入してください（DOの通し番号と対応させること）。</p> <p>【成果】</p> <ol style="list-style-type: none">1) 平成20年度の成績評価資料に関する2回のチェックとピアレビューを実施し、各科目の成績評価が概ね正しく実施されていることが確認された。2) 予定通り、年8回の公開授業とレビュー会を実施し、担当者の授業改善に向けての参考となった。3)、4) 授業アンケートを実施し、各教科担当教員の授業改善のための資料を提供した。5) 概ね良好な評価であった。6) 種々のシラバスの不備を指摘し、修正がなされた。 <p>【課題】</p> <ol style="list-style-type: none">2) 公開授業の外部教育モニターが固定化されているため、新規開拓が必要である。また、e-ラーニング推進支援室の協力を得て、参考となる公開授業のストリーミング配信を行う特別公開授業が年度内に実施できなかった。一方で、この特別公開授業がe-ラーニング教材としてふさわしいものであるかの議論も必要である。3)、4) 今年度から新教務システムから抽出されたデータに基づき、Web授業アンケートシステムを稼動することになったが、そのデータに不備があり、前期授業アンケートでは数人の教員に迷惑をかけることとなった。また、業者に依頼したデータ抽出プログラムの不備の修正に時間がかかり、後期授業アンケート期間が短くなった。
<p>ACTION（チェックをした結果の対応） 残された課題に対し、何らかの対応をした項目について内容を記入してください（DOの通し番号と対応させること）。</p> <ol style="list-style-type: none">2) に関しては、次年度に重点的に取り組むように計画している。3)、4) に関しては、事前に発覚したデータの不備に関しては手作業等で対応したため、大きな問題は無かった。今年度は初めて新教務システムからのデータを利用したということでは試行期間でもあった。後期授業アンケート実施において発覚した残りの僅かなデータ不備が改善されれば、次年度からの本格運用が期待できると思われる。
<p>PDCAの点検結果 PDCAが機能しているかどうか及びその理由について記入してください。</p> <p>（○）機能している （ ） ある程度機能している （ ） 機能していない</p> <p>【理由】。</p> <p>前年度を踏まえて建てられた年度当初のPLANが正しく達成されている。</p>

当該報告書に関する自己評価委員会のコメント

報告書に書かれているPLANに対していえば、PDCAサイクルはほぼ機能しているといえる。ただ、公開授業、成績評価資料、授業アンケートとも、それを行う目的は、いい授業を行うことで「学生の資質を向上させること」にある。その意味からすると、どれもがあるレベルに達した現状では、その目的を再検討する必要があるのではないか。

PLANにあるように定型業務がはっきりと規定されており、よく取り組まれていると思います。その裏返しとして、定型業務自身のCHECKが望まれると思います。

学生の授業アンケート調査に偏りが無いように出来るだけ全員の評価を取る工夫が必要である。

機能している。

適切である。

PDCAサイクルはほぼ機能している。しかしながらレビュー室の業務の最大の目的は授業改善であり、そのための中・長期的な方策を今後検討しPLANを立てるべきではないかと思う。

授業アンケートの回答者数が減っている。何か対策が必要なのではないか。

よく機能している。

自己評価委員会のコメントに対する意見(対応策・反論等)

・コメントにもあるように、授業改善の意味ではある程度のレベルに達しているとも考えられ、その目的の再検討が必要な時期に来ているのかもしれない。

・授業アンケート回答数をどのように捉えるかの解釈はむづかしいと思われる。

・回答数が少ないのは学生に大きな不満がない、まじめに回答しても授業が改善されない、等学生からの調査もあるが、多くの教育機関で授業アンケートをどのように実施およびその結果を反映しているかなどの調査も必要かもしれない。

各部署の活動状況報告書（平成21年度）

部署役職名：氏名 キャリア教育支援室長 一色 誠子

各部署の平成21年度の活動について、PLAN、DO、CHECK、ACTIONの状況を、下記の表に記入してください。（記入欄の大きさは変更可）

<p>PLAN（年度当初の活動方針・活動計画） 重点的に取り組もうとした事項を記入して下さい。</p> <p>・インターンシップについては、各学科、担任、専攻科が、学科独自の方法と目標設定で取り組んでいる現状がある。また、インターンシップについての認識の温度差もあるため、支援室として主導して動くことは考えない。ただし、従来から「キャリア支援プログラム」に設定している“インターンシップ前マナー講習”は、内容をより充実させて実施、学生と学科（担任）の支援をしていく。</p>
<p>DO（実際に行った活動） 通し番号を振り、時系列で箇条書きにしてください。</p> <p>1) 4年生対象キャリア教育支援プログラム「キャリアガイダンス/今後のこと、今からどのように考えていく」を、5月15日金曜日16:10~17:10実施。この中で、インターンシップの意義と意味を話した。</p> <p>2) 4年生対象キャリア教育支援プログラム「インターンシップ事前教育/マナー講習」を、7月10日金曜日16:10~17:10実施。講師は、キャリア教育支援室。あいさつの仕方、自己紹介の仕方などの基礎的な事項から、インターンシップ後の礼状の書き方まで指導。</p>
<p>CHECK（活動のチェック） 実際に行った活動により得られた成果、及び今後に残された課題（理由も含む）について記入してください（DOの通し番号と対応させること）。</p> <p>【成果】</p> <p>「インターンシップ事前教育/マナー講習」の前に、「キャリアガイダンス/今後のこと、今からどのように考えていく」を入れたことによって、学生たちは将来の選択とインターンシップのつながりを意識できたようである。</p> <p>（きやりP i内のポートフォリオに入力された感想から、成果を判断した。）</p> <p>【課題】</p> <p>4年生になる前の段階で、インターンシップの意味と意義を考えるきっかけを作るべく、低学年の支援プログラムの内容を検討する必要がある。</p>
<p>ACTION（チェックをした結果の対応） 残された課題に対し、何らかの対応をした項目について内容を記入してください（DOの通し番号と対応させること）。</p> <p>2年生「VPI検査と職業情報研究」、3年生「キャリアガイダンス」の内容に、学生がインターンシップを自然に意識できるように、22年度のプログラム実施内容の検討に入っている。</p>
<p>PDCAの点検結果 PDCAが機能しているかどうか及びその理由について記入してください。</p> <p>○ 機能している () ある程度機能している () 機能していない</p> <p>【理由】</p> <p>キャリア教育支援プログラムを実施後に、きやりP iに入力された学生の感想メモを参考に、支援室でプログラムの振り返りを毎回行っている。また、プログラムの作成と運用に関して、年度末に開かれる「キャリア教育支援プログラム策定会議」において、内容の検証を行い次年度のプログラムに反映させているため。</p>
<p>当該報告書に関する自己評価委員会のコメント</p> <p>精力的に諸活動を行っており、PDCAサイクルはよく機能している。</p> <p>担任との連絡機能のさらなる向上が期待される。</p> <p>機能している。</p> <p>適切である。</p> <p>PDCAサイクルは機能している。今後、女性技術者へのキャリア支援等、新たな取組みを開始することを期待している。</p> <p>特になし。</p> <p>担任から学生へ働きかけがしにくくなっていないか心配である。</p>

自己評価委員会のコメントに対する意見(対応策・反論等)

・コメントをありがとうございます。「キャリア教育支援プログラム」も一巡(5年)し、ほぼ定着してきましたので、これらを軸に新たな試みを考えているところです。女子学生へのキャリア支援は、女子の卒業生をロールモデルとして示す機会が増えるように、支援プログラムをさらに工夫してまいります。

・ところで、コメントの最後にあります「担任から学生へ働きかけがしにくくなっていないか心配である」のコメントの意味(心配をされている事項が何を指すのか)がよくわかりません。

・担任とキャリア教育支援室の関係を申せば、支援室はあくまでも担任の手助けの立ち位置で活動をしています。周知の通り、大学のキャリア教育のスタンダードプログラムである「キャリア教育支援プログラム」を作成するにあたって、年度末に次年度のプログラムを決める「キャリア教育支援プログラム策定会議」を、全学担任・三主事室・専攻科・学生相談室を交えて策定しています。その席上で出された担任の声も、プログラムに多く反映されています。

各部署の活動状況報告書（平成21年度）

部署役職名：氏名 eラーニング推進支援室長 室長 大應

各部署の平成21年度の活動について、PLAN、DO、CHECK、ACTIONの状況を、下記の表に記入してください。（記入欄の大きさは変更可）

<p>PLAN（年度当初の活動方針・活動計画） 重点的に取り組もうとした事項を記入して下さい。</p> <p>・本校の学習管理システムである WebClass を用いて、eラーニングコンテンツの作成を行ための研修会やワークショップを開催し、ICTを活用した教育実践の推進をめざす。</p>
<p>DO（実際に行った活動） 通し番号を振り、時系列で箇条書きにしてください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 高等教育機関におけるeラーニングの実際についての調査研究 2) eラーニング高等教育連携 eHELP との連携 3) 高専 IT コンソーシアムとの連携 4) コース管理システム WebClass-TCT の整備 5) eラーニングを活用した教育改善推進に向けた教員研修の企画、実施 6) UPO-NET トライアルへの参加（UPO-NET 用の Moodle サーバを整備） 7) 無線 LAN を利用した WebClass-TCT 端末 12 台を整備
<p>CHECK（活動のチェック） 実際に行った活動により得られた成果、及び今後に残された課題（理由も含む）について記入してください（DOの通し番号と対応させること）。</p> <p>【成果】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ICT活用・遠隔教育センター（放送大学）のUPO-NETの情報を収集し検討した。 2) 担任、学科、教務の支援により、eラーニング高等教育連携 eHELP に係る遠隔教育による単位互換制度を利用して、豊橋技科大および九工大のeラーニング科目を、学生（ME4、5年生）が聴講するようになった。 3) 中国地区委員として高専 IT コンソーシアム委員会に出席した。 4) 5) WebClass-TCT 活用のための講習会を開催し、20名を超す参加者が見られた。 6) 7) 無線 LAN を利用した WebClass-TCT 端末 12 台を用いて、学生に、到達度試験の自習や、物理リメディアルコンテンツの利用を促した。 <p>【課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 教室に無線 LAN のアクセスポイントがないため、学生の利用拡大を図ることができなかった。
<p>ACTION（チェックをした結果の対応） 残された課題に対し、何らかの対応をした項目について内容を記入してください（DOの通し番号と対応させること）。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 教室における利用拡大を図るため、無線 LAN のアクセスポイントの整備を早急にめざす。
<p>PDCAの点検結果 PDCAが機能しているかどうか及びその理由について記入してください。</p> <p>（ ）機能している (○) ある程度機能している () 機能していない</p> <p>【理由】</p> <p>eラーニング推進支援室インストラクターの連絡会で定期的に検討している。</p>
<p>当該報告書に関する自己評価委員会のコメント</p> <p>徐々に活動内容が広がってきているが、まだPDCAサイクルが十分機能しているとはいえない。</p> <p>予算の獲得の課題がある。</p> <p>ある程度機能している。</p> <p>適切である。</p> <p>PDCA サイクルはある程度機能しているようだが、活動自体が目に見える形として現れてこないことに課題を残している。</p> <p>特になし。</p> <p>よくわからない。</p>

自己評価委員会のコメントに対する意見(対応策・反論等)

特になし。

各部署の活動状況報告書（平成21年度）

部署役職名:氏名 図書館長 渡辺 勝利

各部署の平成21年度の活動について、PLAN、DO、CHECK、ACTIONの状況を、下記の表に記入してください。（記入欄の大きさは変更可）

<p>PLAN（年度当初の活動方針・活動計画） 重点的に取り組もうとした事項を記入して下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ きらめきコンテストの活性化 ・ 研究紀要の発刊 ・ 高専だよりに図書館の記事を掲載 ・ 専門棟校舎改修に伴う図書の返却・整理 ・ 週末の開館業務の効率化 ・ 入退館システムの更新の検討
<p>DO（実際に行った活動） 通し番号を振り、時系列で箇条書きにしてください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) きらめきコンテストの開催。 2) きらめきコンテストの選考結果を高専だよりへ掲載。 3) 山口県大学図書館協議会総会への出席。 4) 時間外開館の効率化について検討、試行。 5) 研究紀要の発刊。 6) TCT DREAMS 準備会議において情報システム関係の現状、検討課題（入退館システム更新を含む）を報告。
<p>CHECK（活動のチェック） 実際に行った活動により得られた成果、及び今後に残された課題（理由も含む）について記入してください（DOの通し番号と対応させること）。</p> <p>【成果】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) きらめきコンテストには全8作品の応募があり、審査の結果、優秀賞、入賞各1編、佳作1編が選ばれ、高専祭オープニングにおいて表彰された。 2) 高専だより63号に、きらめきコンテストの入選作品、講評を掲載した。 3) 8月に下関市立大学で開催された山口県大学図書館協議会総会に出席し、昨年度の本校図書館の活動報告を行った。 4) 土、日の時間外開館の利用者が少ないことから、7月から半年間、日曜日の時間外開館の中止を試行した。その結果、学内外からもクレーム等は寄せられなかった。これを踏まえ2010年1月から日曜日の時間外開館を中止した。また、土曜日の開館時間についても、利用者数は少なく、時間外補助員に寮生がいる場合の昼食を考慮して、9時から12時に変更した。以上、2点について図書館利用規則を改定した。 5) 2009年12月に研究紀要を発刊した。全10編の論文が投稿された。 6) 4回の運営会議が開催され、図書館の図書貸出しシステムや入退館システムも新たな教務システムや学内の諸機関と整合性をとりながら進めていくことが必要であることが確認された。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 試験期間前や試験期間中の日曜日に、多くの学生が試験勉強のために学校にきている。勉強できる場所を確保するために図書館を開館してほしいとの意見が教員から寄せられた。
<p>ACTION（チェックをした結果の対応） 残された課題に対し、何らかの対応をした項目について内容を記入してください（DOの通し番号と対応させること）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 上記課題について試験期間前の日曜日に試行的に開館した。利用者は無かったが、来年度も要望が強ければ実施を検討する。
<p>PDCAの点検結果 PDCAが機能しているかどうか及びその理由について記入してください。</p> <p style="text-align: center;">(○) 機能している () ある程度機能している () 機能していない</p> <p>【理由】</p> <p>当初の計画が遂行され、成果が挙げられている。また、課題に関して素早く対応がなされている。</p>

当該報告書に関する自己評価委員会のコメント

運営に関し大きな不満は聞こえていないものの、きらめきコンテストの応募数が低迷していることもあり、PDCA サイクルはある程度まで機能している段階だと判断した。

古い専門書を最新版に更新していくことや、図書予算増額や寄贈図書のキャンペーン等を実施して学生の進路に役立つ蔵書数確保に努めることが期待される。

機能している。

適切である。

PDCA サイクルは機能していると思うが、図書館の有効利用促進、学生の学力向上のため、今後、積極的な試みをしていただきたい。

試験前の日曜開館について、学内への周知が十分ではなかったのではないか。

図書館の学習室としての開放が望まれる。

自己評価委員会のコメントに対する意見(対応策・反論等)

- ・ご指摘のとおり、きらめきコンテストの応募数は低迷しています。今後は、作品応募によるメリットを検討すべきと考えます。
- ・同窓会からの寄付を図書として受け入れてもよいのではないかと考えます。
- ・来年度は、試験期間前、中の開館の早目の告知を是非お願いしたい。

各部署の活動状況報告書（平成21年度）

部署役職名:氏名 情報処理センター長 西村 太志

各部署の平成21年度の活動について、PLAN、DO、CHECK、ACTIONの状況を、下記の表に記入してください。（記入欄の大きさは変更可）

<p>PLAN（年度当初の活動方針・活動計画） 重点的に取り組もうとした事項を記入して下さい。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 専門棟改修工事に伴うネットワークの移設・ 専門棟改修後のネットワークの更新・設定・ 校内 LAN および PC 室の安定運用・ 情報セキュリティの確保・ プログラミングコンテストへの支援
<p>DO（実際に行った活動） 通し番号を振り、時系列で簡条書きにしてください。</p> <ol style="list-style-type: none">1) 学生に対して新年度における PC 室利用心得やネットワーク利用上の注意喚起を行った。2) プログラミングコンテストの学内窓口となり、学内審査会を実施した。3) 高専体育大会徳山会場のホームページを運営した。4) 校舎改修に伴うネットワーク装置の移設を行った。5) UPKI のサーバー証明を申請・取得し、運用を開始した。6) 校舎改修終了に伴い、ネットワーク装置の切り戻しを行った。7) T-SEARCH を学内で運用するためのサーバーを構築した。8) MS 包括ライセンス締結に伴う、ネットワークインストール用サーバーの準備を行った。
<p>CHECK（活動のチェック） 実際に行った活動により得られた成果、及び今後に残された課題（理由も含む）について記入してください（DOの通し番号と対応させること）。</p> <p>【成果】</p> <ol style="list-style-type: none">2) 木更津で開催された第20回全国プログラミングコンテストに出場した。4)、6) 学内外に迷惑をかけることなく、ネットワークの安定運用ができた。 <p>【課題】</p> <ol style="list-style-type: none">1) セキュリティ確保のためのパスワードの定期的な変更などを教員に対して実施できなかった。8) MS 包括ライセンスの早期運用が行えなかった。
<p>ACTION（チェックをした結果の対応） 残された課題に対し、何らかの対応をした項目について内容を記入してください（DOの通し番号と対応させること）。</p> <ol style="list-style-type: none">1) 教職員にアンケートを実施する等して、パスワード管理方法について検討を行う。 （一定期間経過後強制的にパスワード変更する、パスワード変更方法の講習会を開催する等）8) 機構本部からプログラムが到着し次第、ネットワークインストール用サーバーを構築し、早期運用を目指す。
<p>PDCAの点検結果 PDCAが機能しているかどうか及びその理由について記入してください。 （ ）機能している （○）ある程度機能している （ ）機能していない</p> <p>【理由】</p> <p>学内 LAN および PC 室の安定運用は達成されたが、教職員に対するセキュリティ確保、MS 包括ライセンス関係の課題が残っているため、PDCA に関してはある程度機能していると判断した。</p>

当該報告書に関する自己評価委員会のコメント

通常のルーチンワークに加え、校舎改修等臨時の案件があったにもかかわらず、運営に支障をきたすことがなかったこともあり、PDCAサイクルは機能している段階にあると判断した。

使用できるソフトの充実が期待される。

機能している。

適切である。

MS 包括ライセンスへの早期対応を希望します。

特になし。

自己評価委員会のコメントに対する意見(対応策・反論等)

・ソフトの充実に関しては各学科で使用したいソフトがありましたら導入の検討をします。ただし、ソフトの購入は学科でお願いすることになると思います。

・MS 包括ライセンスに関しては機構本部からプログラムが送付され次第対応する予定です。

各部署の活動状況報告書（平成21年度）

部署役職名：氏名 テクノ・リフレッシュ教育センター長 原 隆

各部署の平成21年度の活動について、PLAN、DO、CHECK、ACTIONの状況を、下記の表に記入してください。（記入欄の大きさは変更可）

<p>PLAN（年度当初の活動方針・活動計画） 重点的に取り組もうとした事項を記入して下さい。</p> <p>(1) 学生・父兄・教職員へのアカデミア事業の告知 (2) コーディネータと協力した企業連携の推進 (3) 高専機構「スーパー地域産学官連携展開事業」の拠点校としての事業展開 (4) 知財活動の整備充実</p>
<p>DO（実際に行った活動） 通し番号を振り、時系列で箇条書きにしてください。</p> <p>1) 入学生へのパンフレット配布を行った 2) アカデミア企業訪問、周辺企業訪問 3) 中国地域コラボレーション会議と共催で第2回テクノマーケット開催、産学官連携推進会議（京都）にて中国地区高専ブース 4) 知財講習会、JST 先端技術講演会参加、知財ノート、論文審査</p>
<p>CHECK（活動のチェック） 実際に行った活動により得られた成果、及び今後に残された課題（理由も含む）について記入してください（DOの通し番号と対応させること）。</p> <p>【成果】1)会員の反応は良好であった 2)コーディネーター成果（JST シーズ発掘し件採択3件、山口県中小企業支援事業採択4件）共同研究28件、受託研究2件 3)テクノマーケットは共催による企業入場者の減少、シーズ発表の内容に不満。京都会議は盛況。 4)特許出願2件、国際特許1件準備（JST 支援事業）、パテントコンテスト1件入賞、中国 VG 大賞獲得</p> <p>【課題】1)新入生以外へのアカデミア事業の告知 2)テクノアカデミア会員増1減5休1。会員増強、サービス改善。 3)テクノマーケットの運営方法が要検討 4)知財ノート、論文審査の徹底</p>
<p>ACTION（チェックをした結果の対応） 残された課題に対し、何らかの対応をした項目について内容を記入してください（DOの通し番号と対応させること）。</p> <p>1)テクノアカデミア交流会へ学生テーマの展示、学生による発表 2)研究室招待、アカデミア企業の学生への説明会を検討 3)テクノマーケットに対するコラボレーション会議の扱いと地域振興会との連携を検討した 4) 知財ノート、論文審査の徹底を計る。具体的検討は今後。</p>
<p>PDCAの点検結果 PDCAが機能しているかどうか及びその理由について記入してください。</p> <p>() 機能している (○) ある程度機能している () 機能していない</p> <p>【理由】 センター長、副センター長、コーディネータを中心にアカデミア事業活性化を訪問報告ごとに検討。具体策は来年度計画に反映。 拠点校事業についてはメール審議で調整により策定。新年度原案をテクノセンター長会議で提案。</p>

当該報告書に関する自己評価委員会のコメント

例年に比べ、テクノ・アカデミアや拠点校としての活動は低調気味で、PDCAサイクルは必ずしも十分機能していたとはいえない。

テクノアカデミア会員の増化が期待される。

機能している。

適切である。

PDCA サイクルはある程度機能している。テクノ・リフレッシュ教育センターは、本校の運営上、重要なセクションなので、今後の改革に期待している。

特になし。

よくわからない。

自己評価委員会のコメントに対する意見(対応策・反論等)

・ 第三者的に見ればごもっともなご指摘です。多忙を理由に協力的でない教員が年々増えています。センターのメンバーのみではいかんともしがたいところです。これを書かれた方は、どこでどのようなご協力をいただいたかお聞きしたいところです。

各部署の活動状況報告書（平成21年度）

部署役職名:氏名 教育研究支援センター長 原 隆

各部署の平成21年度の活動について、PLAN、DO、CHECK、ACTIONの状況を、下記の表に記入してください。（記入欄の大きさは変更可）

<p>PLAN（年度当初の活動方針・活動計画） 重点的に取り組もうとした事項を記入して下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育研究支援センターの体制整備・施設整備 ・学生のサポート体制の在り方 ・職員のスキルアップ ・業務内容に見合った職員の確保 ・中国地区技術職員研修の実施
<p>DO（実際に行った活動） 通し番号を振り、時系列で箇条書きにしてください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 体制は事務部から徐々にセンターに移行。 2) なし 3) 研修を計画的に行った。技能検定合格者1名 4) 正規職員新採用（配置替え）。次年度正規職員採用決定。 5) 中国地域技術職員研修を実施。支援センター長会議、技術研修の要綱を決定。
<p>CHECK（活動のチェック） 実際に行った活動により得られた成果、及び今後に残された課題（理由も含む）について記入してください（DOの通し番号と対応させること）。</p> <p>【成果】1)組織としては独立</p> <ol style="list-style-type: none"> 2) なし 3)順調に消化。研修費用についてもある程度確保 4)順調に推移。22年度以降の人事案も了承。 5)順調に推移 <p>【課題】1)旧来業務との調整が必要</p> <ol style="list-style-type: none"> 2)次年度の重要課題として検討 3)第1技術室機器更新のため、精力的な研修が必要 4)人材発掘 5)中国地区研修の充実のために協力必要
<p>ACTION（チェックをした結果の対応） 残された課題に対し、何らかの対応をした項目について内容を記入してください（DOの通し番号と対応させること）。</p> <ol style="list-style-type: none"> 2)学生サポート体制 4)新規採用の人材発掘
<p>PDCAの点検結果 PDCAが機能しているかどうか及びその理由について記入してください。</p> <p>(○) 機能している () ある程度機能している () 機能していない</p> <p>【理由】</p> <p>職員の意識が高く常に問題意識を持って現状を改善している。願わくば、学生対応のための時間に余裕がほしい。</p>

当該報告書に関する自己評価委員会のコメント

特別問題も発生しておらず、PDCAサイクルは機能している。

学生サービスの向上検討がさらに望まれる。

機能している。

概ね適切であるが、「学生のサポート体制」へのACTION内容が不明である。

学生のサポート体制の整備等、課題を残したが、PDCAサイクルは機能している。

特になし。

特になし

自己評価委員会のコメントに対する意見(対応策・反論等)

・毎年重要課題としていますし、意識はあります。しかし、超勤、残業に目をつむらなければならない現状があります。十分な外部資金があれば、外部要因を利用できますが、現状では困難です。

各部署の活動状況報告書（平成21年度）

部署役職名:氏名 自己評価委員会委員長 森野 数博

各部署の平成21年度の活動について、PLAN、DO、CHECK、ACTIONの状況を、下記の表に記入してください。（記入欄の大きさは変更可）

<p>PLAN（年度当初の活動方針・活動計画） 重点的に取り組もうとした事項を記入して下さい。</p> <ul style="list-style-type: none">・各部署から提出された平成20年度の活動状況についてその内容を検討し、報告書にまとめる。・各部署から提出された平成21年度のPLAN（案）の内容を検討し、PLANを確定させ、公表する。・年間職務の自己評価のあり方（扱い方も含む）について、よりよい方法について検討する。・平成20年度の年間職務の自己評価について、提出された各教員の内容をとりまとめ、公表する。
<p>DO（実際に行った活動） 通し番号を振り、時系列で箇条書きにしてください。</p> <ol style="list-style-type: none">1) 各部署から平成20年度の活動状況報告を求め、自己評価委員会の検討を経て5月、報告書をまとめた。2) 各部署から平成21年度のPLANについて提出を求め、自己評価委員会の検討を経て6月、公表した。3) 平成20年度の年間職務の自己評価については、校長からの諮問を受けて今年度から変更した内容に基づき、実施した。なお、提出された自己評価の取扱いについては校長からの提案を受けて再検討し、修正した。4) 各教員から平成20年度の年間職務の自己評価について提出を求め、結果をとりまとめ、HPに公表した。
<p>CHECK（活動のチェック） 実際に行った活動により得られた成果、及び今後に残された課題（理由も含む）について記入してください（DOの通し番号と対応させること）。</p> <p>【成果】</p> <ol style="list-style-type: none">1) 各部署において判断したPDCAの点検結果では、機能していると判断した部署が前年度より倍増しており、着実に歩みを進めている状況が窺われ、基本的スタイルは整ったといえよう。しかしながら、教育・研究のさらなる質の向上をめざすにはこれで十分とはいえない状況にあり、次のステップへ進むことが求められる。2) 平成20年度の活動状況報告書をとりまとめた後で行ったため、比較的スムーズに行うことができた。3) 単なる「自己評価」から、項目ごとに改善策や根拠をベースに総合評価を行う総括欄を追加し、実施した。またそれに対する評価は、自己評価委員会が行うのではなく、主事連絡会メンバーと学科主任の意見を参考にしつつ校長がとりまとめ、各教員にフィードバックすることになり、今年度から実施した。4) 従来どおりとりまとめ、HPに公表した。 <p>【課題】</p> <ol style="list-style-type: none">2) PLANを各部署で勝手に決めるのではなく、中期計画の一環として、本校全体で整合性をとる必要がある。3) 長年の懸案事項であった自己評価に対する評価とフィードバックが行われ、一歩大きく前進したものの、かけた労力は大きく、またそれに見合うだけの効果はまだ得られていないといえず、さらに改善する必要がある。そのため、それが機能しているかどうかの検証をし、教員の資質向上に効果的な方策とする必要がある。4) 3) と関連し、実際にうまく機能させる方策について検討する必要がある。 <p>※ いま行っている各部署と各教員の自己評価が本校全体の評価とどう対応するか、大きな課題として残っている。</p>
<p>ACTION（チェックをした結果の対応） 残された課題に対し、何らかの対応をした項目について内容を記入してください（DOの通し番号と対応させること）。</p> <ol style="list-style-type: none">2) 次年度以降のPLANについては、本校の第2期中期計画に基づき、定めることとした。3) 受けた評価とフィードバックに関する意識調査は、校長からの改善案とともに、次年度の検討課題としている。4) 3) と同じく、実際にうまく機能させる方策について、次年度の検討課題としている。 <p>※ 委員会としてこの議論をするには機が熟しておらず、ACTIONを起こしていないが、その視点は重要である。</p>
<p>PDCAの点検結果 PDCAが機能しているかどうか及びその理由について記入してください。</p> <p>（ ）機能している (○) ある程度機能している () 機能していない</p> <p>【理由】</p> <p>年度当初のPLANは途中で一部変更することとなったが、それについては確実に実行しており、結果についてもCHECKしている。しかしながら、対応を次年度に持ち越した課題が多く、今年度は十分に機能したとはいえないと判断した。</p>

当該報告書に関する自己評価委員会のコメント

教員の教育力と研究業績をさらに伸ばすために、校務の効率化を考え、最小の労力・時間で最大の効果を上げる校務のあり方を考えるべきと思われる。

機能している。

適切である。

多くのセクションで、全体の PLAN を考慮せず年度 PLAN を立ててしまっているのが散見され、問題であると思う。第 2 期中期計画が策定されたことを受け、今後、全体の計画に沿った各年度計画が立てられることを期待する。これに関してはどこが主導して実施すべきものか十分に議論し、決定すべきである。自己評価委員会の PDCA サイクル自体は十分に機能している。

特になし。

年間職務の自己評価の評価基準の検討。

自己評価委員会のコメントに対する意見(対応策・反論等)

- ・いただいたコメントのうち、「全体の計画に沿った各部署での年度計画策定」と「年間職務の自己評価の評価基準の検討」については、すでに対応を始めており、改善策が実施される状況にある。
- ・「校務の効率化」については、本部署の担当にはあたらない。